

# コロナ禍だからこそ 最低賃金は全国一律 一緒にめざそう 1,500円



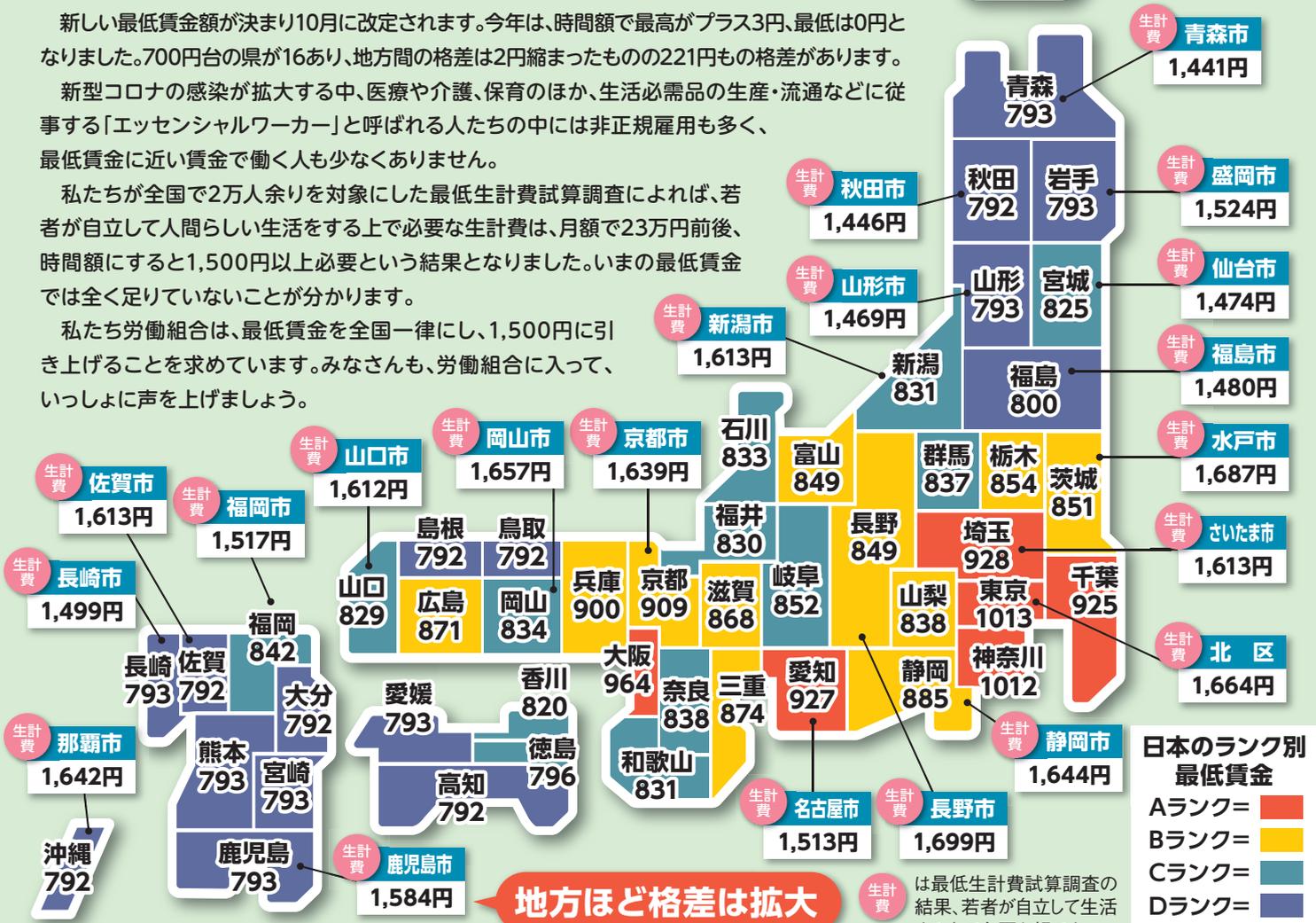
## ▶ 2020年度改定「0～3円」は低すぎる!!

新しい最低賃金額が決まり10月に改定されます。今年は、時間額で最高がプラス3円、最低は0円となりました。700円台の県が16あり、地方間の格差は2円縮まったものの221円もの格差があります。

新型コロナウイルスの感染が拡大する中、医療や介護、保育のほか、生活必需品の生産・流通などに従事する「エッセンシャルワーカー」と呼ばれる人々の中には非正規雇用も多く、最低賃金に近い賃金で働く人も少なくありません。

私たちが全国で2万人余りを対象にした最低生計費試算調査によれば、若者が自立して人間らしい生活をする上で必要な生計費は、月額で23万円前後、時間額にすると1,500円以上必要という結果となりました。いまの最低賃金では全く足りていないことが分かります。

私たち労働組合は、最低賃金を全国一律にし、1,500円に引き上げることを求めています。みなさんも、労働組合に入って、いっしょに声を上げましょう。



# 人間らしく暮らすには だれでもどこでも **時間額** 1,500円必要

## 低すぎる水準 → 大幅引き上げ!

Aさん 障がい者施設 有期契約生活支援員

初任給は最賃額と同じ。7年目の私でも6月の手取りは10万円を切りました。ひとりで息子を育てているため、本当に生活が苦しいです。



新型コロナの感染が広がるなか、社会生活を営むうえで必要不可欠な医療や介護、物流などの仕事に従事している人たち（エッセンシャルワーカー）の多くは非正規労働者です。

イギリスでは「ウイルス対応の最前線で働く人たちの待遇が改善される」として、最低賃金を今年4月から前年度比6.2%引き上げ、日本円で1,092円から1,160円に引き上げました。

私たちは、1日8時間働けば人間らしい生活ができる水準の実現を求めて最低賃金の引き上げと全国一律最低賃金制度の創設を求めています。



Bさん スーパー パート

生活に欠かせない私たちの仕事は在宅や機械ではできません。その価値を認め、その価値に見合った時給にしてほしいです。

中央最低賃金審議会に寄せられたエッセンシャルワーカーの声

Cさん 保育士

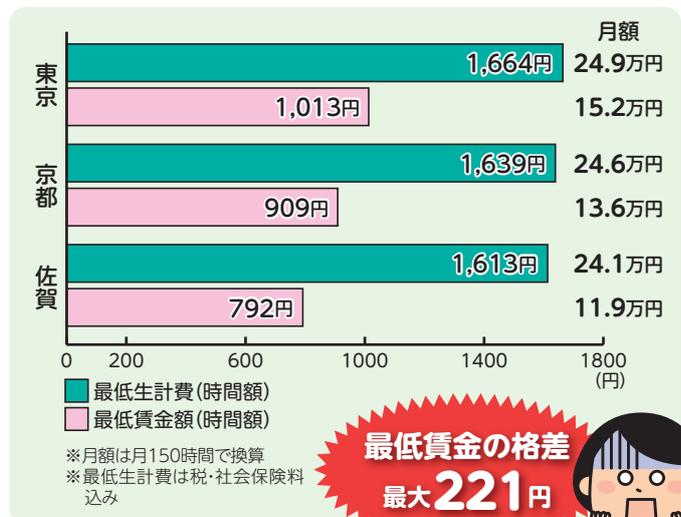
子どもたちの命、未来を守る大切な仕事です。生活に必要な分の賃金保障を考えてください。最低賃金をあげてほしい!



## 大きすぎる地域間格差 → 最低賃金は全国一律に!

全国どこでも生計費に大きな差はありません。全労連・国民春闘共闘などが取り組んでいる最低生計費試算調査では、最低賃金が一番高い東京でも一番低い地方でも月額23万円、時間給で1,500円以上必要との結果が出ています。東京は家賃が高い一方、地方では自家用車が必需品であることなどによるものです。

地域別の最低賃金が、地方の賃金上昇をおさえ、賃金の高い大都市に若者の流出を招いているのです。



最低賃金の引き上げには、コロナ禍で厳しい状況にある  
中小企業に対する支援が不可欠です。